タイトル：平成 26（2014）年度　教育セミナー（第 10 回）
日時：平成 26 年 9 月 20 日（土）～23 日（火・祝）
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究　3 階　マルチメディア会議室（304）

「現代標準アラビア語における非典型的主語 ― 可能動詞 yumkinu の事例から」
後藤　智明（東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻）

今回この中東☆イスラーム教育セミナーに参加させていただき、発表もさせていただいたことで、本当に有意義な経験をさせていただきました。

昨年も自分はこのセミナーに参加しましたが、その際は発表する勇気を持てませんでした。しかし、昨年の発表者の方々の御発表で、先生方や受講生の皆様方が有意義なコメントを盛んにされていたことが、自分に今年このセミナーで発表することを決意させ、実際に発表を行うことが出来ました。その結果、以下の二点を自分は学ばせて頂きました。

まず、先生方や受講生の皆様方のコメントは、自分と同じく言語学が専門の方々と普段話している時に自分が前提としている言語学での考えについて、“本当にそれを前提にしていいのかどうか、自分は批判的に考えることが出来ていただろうか”という疑問を抱く機会を与えて下さいました。

そして、事前配布資料の作成では、異なった分野の方々をオーディエンスにしている以上、“自分の専門分野の用語や概念を特に断りなしに用いても、多少なら相手に理解されるはず”と思い込まないよう自覚して、資料を作成したつもりでした。しかし、それでも実際の発表では、配布資料の記述や自分の説明が分かりにくく、オーディエンスの方々に発表内容がうまく伝えられていない点があったと指摘を受けました。この経験が、“異なった専門分野を持つオーディエンスの方々にも分かりやすい発表をするためには、普段自分が意識せず使っている概念をすべて批判的に考え抜いて、なおかつそれを前提知識が共有されていない方々に分かりやすく説明する方法を考えなければいけない”という自覚を今まで以上に持つことを自分に促しました。

セミナー全体の性質について言えば、自分が去年このセミナーで感じた“研究が未完成でも、発表が出来るし、有益なコメントを受け取ることが出来るので、積極的に発表しよう”というメッセージが、今年も先生方や受講生の皆様方から発せられていたように感じます。

そして、自分の前提を批判的に捉えなおすことの大切さと、自分の視点ではなくオーディエンスの視点に立った発表をすることの大切さの二つを、自分が今回このセミナーから教わることが出来たのは、このセミナーが専門分野を細かく限定せず、広く中東やイスラームについて研究されている先生方や大学院生の方々を集めたからこそだと考えます。

ぜひ今後もこのセミナーが、上記の二つの性質を維持しながら継続して設けられ、中東やイスラームに関わる研究をされている方々の研鑽の場が広がることを強く願っていますし、また信じています。

自分も、今回のこのセミナーでの経験を活かして、自分の研究を更に進めていければと考えております。